

平成 21 年 8 月 13 日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
 (コード番号：4572)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 相川 法男
 (TEL. 078-302-7039)

平成 21 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想との差異

及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 21 年 2 月 13 日に公表しました平成 21 年 12 月期第 2 四半期累計期間(平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)の業績予想値と本日(平成 21 年 8 月 13 日)公表の平成 21 年 12 月期第 2 四半期累計期間の業績実績値について、下記の通り差異が生じたのでお知らせいたします。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、通期の業績予想を下記の通り修正しますのでお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 12 月期 第 2 四半期累計期間の業績予想と実績値の差異(連結)
 (平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回公表予想 (A)	299	△276	△211	△215	△4,037.35 円
実績値 (B)	318	△162	△158	△162	△3,049.26 円
増減額 (B-A)	19	113	52	52	
増減率 (%)	6.4%	—	—	—	
(ご参考) 前第 2 四半期実績 (平成 20 年 12 月期第 2 四半期)	238	△118	△167	△168	△3,417.21 円

2. 平成 21 年 12 月期 第 2 四半期累計期間の業績予想と実績値の差異(個別)
 (平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回公表予想 (A)	274	△273	△210	△213	△4,013.64 円
実績値 (B)	293	△161	△157	△161	△3,032.02 円
増減額 (B-A)	19	111	52	52	
増減率 (%)	6.9%	—	—	—	
(ご参考) 前第 2 四半期実績 (平成 20 年 12 月期第 2 四半期)	240	△107	△156	△157	△3,199.06 円

3. 差異が生じた理由

(連結)

世界的に抗ガン剤の研究開発が活発化している中、その主流である分子標的薬、特にその代表であるキナーゼ阻害薬に関連する市場は拡大基調にあります。当社グループは、この拡大する市場において、キナーゼ阻害薬の研究開発に関する各種製品・サービスを製薬企業等に対して提供しており、第2四半期連結累計期間においては、研究開発活動を活発化させる製薬企業等からの好調な需要に支えられ、売上高は318百万円と計画を上回る結果となりました。

損益面につきましては、売上が計画を上回ったことに加え、研究の効率化や諸経費の抑制等の経費節減に努め、計画に比較して販管費が減少した結果、営業損失は162百万円となり、計画よりも赤字額が大幅に縮小しました。経常損益については、当初、本年上期中に営業外収益としての収益計上を見込んでいた補助金収入61百万円について、会計上、本年上期あるいは本年度中の収益計上が困難であるとの見通しに立ち、一旦、本年度中の収益計上を見込まないことといたしました。これにより営業外収益が計画よりも61百万円減少し、その結果、経常損失は158百万円、特別損失(創薬事業の固定資産に係る減損損失等)3百万円が発生したこと等により、当期純損失は162百万円となり、経常損失、当期純損失とも計画に比較して赤字幅が縮小し、損益が改善する結果となりました。

(個別)

個別業績予想と実績値の差異につきましても、連結業績予想と実績値の差異と概ね同様の理由によるものであります。

4. 平成21年12月期 通期業績予想数値の修正 (連結)

(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	710	△466	△399	△393	△7,377.51円
今回修正予想 (B)	710	△359	△372	△363	△6,814.34円
増減額 (B-A)	0	107	27	30	
増減率 (%)	0%	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成20年12月期通期)	499	△296	△346	△503	△9,814.39円

5. 平成21年12月期 通期業績予想数値の修正 (個別)

(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	650	△462	△395	△389	△7,302.42円
今回修正予想 (B)	650	△357	△371	△362	△6,795.57円
増減額 (B-A)	0	105	24	27	
増減率 (%)	0%	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成20年12月期通期)	483	△283	△333	△490	△9,564.20円

6. 業績修正の理由

(連結)

前述の通り、第2四半期連結累計期間につきましては、研究開発活動を活発化させる製薬企業等からの好調な需要に支えられ、売上は計画を上回る結果となり、損益面についても、研究の効率化や諸経費の抑制等、経費削減に努めた結果、赤字幅を縮小する結果となりました。

第3四半期以降もキナーゼ阻害薬に関連する市場は引き続き拡大基調にあるものと想定していることや、前述の通り、第2四半期連結累計期間の売上高が計画を上回って推移したことから、通期の売上高についても前回予想を達成できる見込みであります。第3四半期以降も製薬業界の業界再編が継続する可能性が高く、事業環境は不透明であることから、通期の売上予想については前回予想を据え置きます。他方、通期の損益予想につきましては、前述の通り、第2四半期連結累計期間において研究の効率化や原価低減ならびに経費節減により損益改善を図った結果赤字額を縮小することができ、さらに第3四半期以降においても引き続き諸経費を抑制する一方で、効率的な事業運営に努めることから、営業損失、経常損失、当期純損失とも赤字幅を縮小できる見込みです。

(個別)

個別業績予想の修正につきましても、連結業績予想の修正と概ね同様の理由によるものであります。

以 上

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績等は、今後の様々な要因によって予想と異なる場合があります。